

株 式 会 社 エ ー ワ ン 精 密

2020 年 6 月 期 決 算 説 明 会

2020 年 6 月 期 決 算 説 明 会 資 料 目 次

	ページ
(1) 当社の事業について	
① 当社の事業展開	1
② 事業内容・特色	2
③ 自動旋盤用カム部門	3
④ コレットチャック部門	4
⑤ 切削工具部門	5
(2) 決算について	
① 決算の概要	6
② 損益の状況	7
③ 財務の状況	8
④ キャッシュ・フローの状況	9
(3) 今後の事業展開	
① 自動旋盤用カム部門	10
② コレットチャック部門	11
③ 切削工具部門	12
(4) 添付資料	13

当社の事業展開

経営理念

高品質な製品をより低コスト、短納期で
顧客のニーズに応え製品を提供する

ものづくりに不可欠な工具を扱う

利益を出せる事業を行う

業界のトップを狙える事業を行う

事業内容

自動旋盤用カムの製造・販売 1970年(昭和45年)～

コレットチャックの製造・販売 1976年(昭和51年)～

切削工具の再研磨及び特殊切削工具の製作 1999年(平成11年)～

事業領域

旋盤による旋削加工・フライスによる切削加工に使用される消耗工具に特化

機械により素材を削り出し精密な部品加工する根幹となる製造工程に的を絞っている

工具の中でも使用される状況に応じて種類・形状が多岐に亘り製造に手間のかかる工具

他社との差別化・当社の特色

多品種で手間のかかる工具に1本から高品質・短納期対応する

直販比率が高く製造・販売両面で利益を享受できる

15,000社以上の顧客からリピートオーダーが入る

自動旋盤用カム部門

カム式小型自動旋盤で使用されるカムの設計・製作・販売

- ・同じ部品を大量に効率的に生産できる機械
- ・単品、大量生産部品がアジアなどの海外生産に移行してから機械自体が製造されていない
- ・カム式機械を使用する顧客からの受注に対応

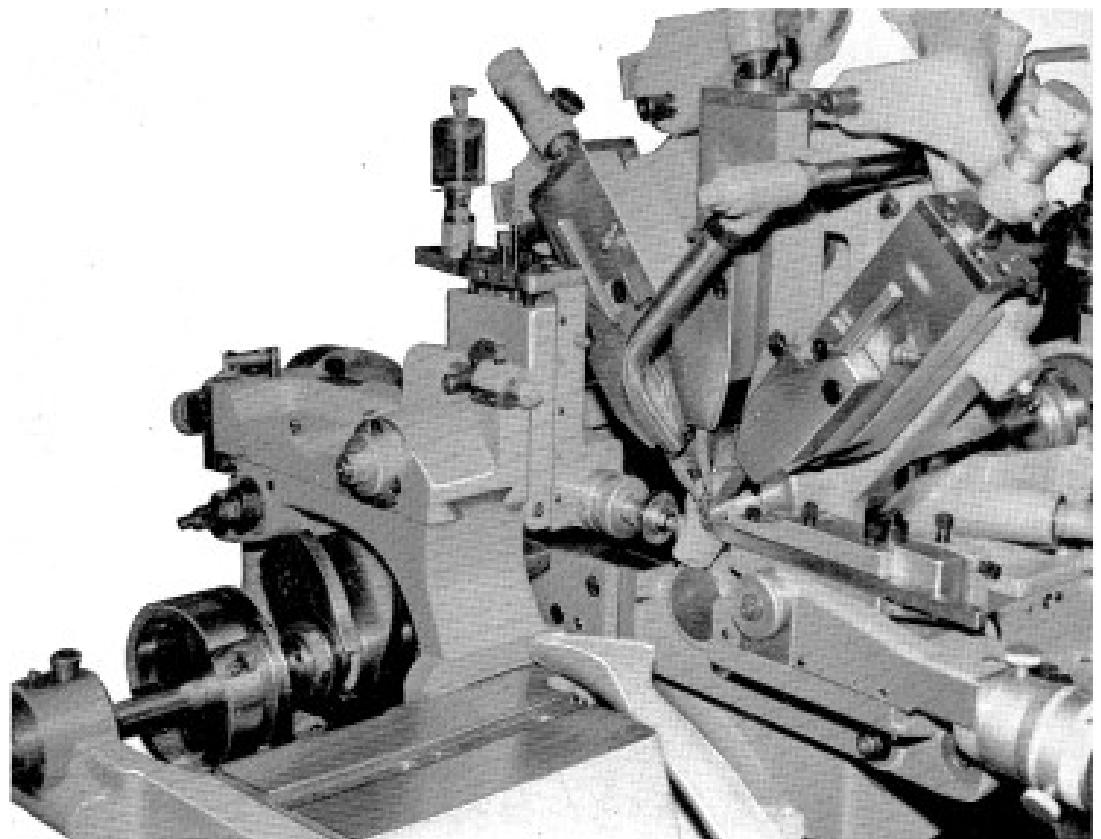
製品写真



カム式自動旋盤 (型番: NS-P1053)



カム取付後写真



コレットチャック部門

主に小型自動旋盤で使われるコレットチャックの製造・販売

コレットチャックが主に使われる機械

NC旋盤 3,197億円(2019年生産額) 19,585台

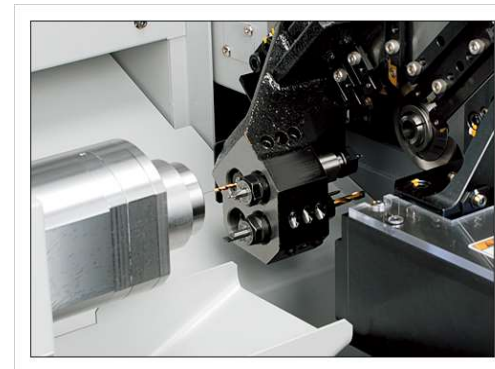
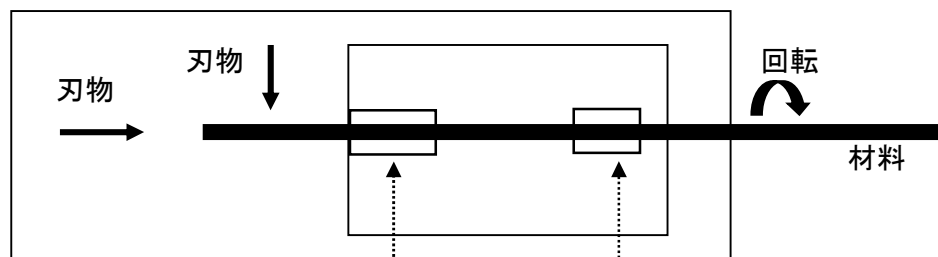
うち 小型CNC自動旋盤 約 1,797億円(2019年推定生産額)

主な小型CNC自動旋盤メーカー

シチズンマシナリー、スター精密、ツガミ、高松機械、エグロ

特殊コレットチャック

専用機 842億円(2019年生産額) 3,410台



加工部品

精密機械、産業機械、電子部品、半導体、自動車、航空機、医療機器、ガス・水道栓、住宅機器など



切削工具部門

金属等の切削部品加工に使用される工具の製作・再研磨

加工のイメージ



主に切削工具を使用する機械

マシニングセンター	1,852億円(2019年生産額)	14,517台
NCフライス、中ぐり盤	176億円(2019年生産額)	820台

使用される工具

超硬エンドミル	545億円(2019年生産額)
超硬ドリル	423億円(2019年生産額)
その他超硬工具	353億円(2019年生産額)

主なマシニングセンターメーカー

オークマ、ヤマザキマザック、森精機、牧野フライス
キタムラ機械、安田工業、松浦機械、東芝機械
三井精機、三菱重工など

加工部品のイメージ



- ・材料を固定し、切削工具が回転して材料を切削して部品形状を作る
- ・小物から大物まであらゆる部品加工に使用される
- ・ロットのある部品の場合、特殊切削工具で量産加工することが多い

加工部品

一般機械、自動車、精密機器、電子部品、航空機、金型



2020年 6 月期 決算概要

売上	前期に比べ水準を切り下げたレベルで横ばいに推移したが、今年の4月から6月に掛けて急速に受注が減少し落ち込んだ。
原価	通常の事業活動で発生する原価で特別な要因はなかった。
利益	減収に相応し、減益になった。

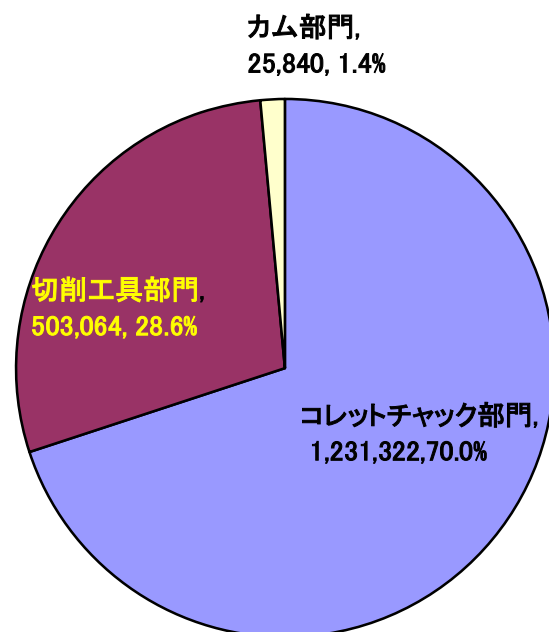
人件費

	(千円)	
	29期	30期
労 務 費	799,323	730,197
コストに占める比率	55.2%	55.8%

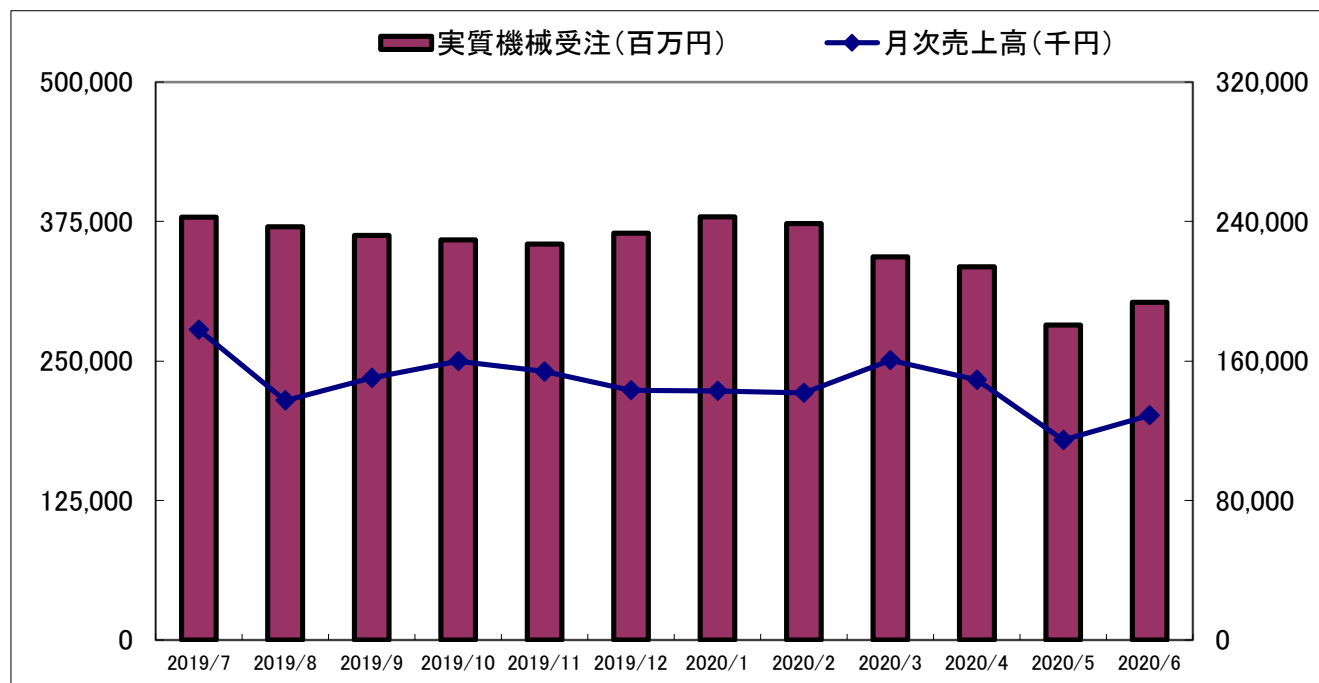
設備投資額と減価償却費

	(千円)		
	28期	29期	30期
設備投資額	197,196	78,360	167,456
減価償却費	175,564	175,961	177,766

部門別売上構成比(千円)



実質機械受注と月次売上高



2020 年 6 月期 損益の状況

(単位：千円)

	2019 年 6 月期			2020 年 6 月期			増 減 要 因
売上高		売上構成比	前年同期比		売上構成比	前年同期比	
コレットチャック	1,470,484	70.6%	103.5%	1,231,322	70.0%	83.7%	前期に比べ受注水準を切り下げて推移し、今年の4月からの自動車量産部品減少により、4～6月期は大幅な落ち込みとなった。
切削工具	587,686	28.2%	99.3%	503,064	28.6%	85.6%	国内製造業の機械稼働率低下に連動し、やや減少した受注水準で推移したが、今年の5・6月に受注が急激した。
自動旋盤用カム	26,029	1.2%	96.7%	25,840	1.4%	99.3%	顧客企業のカム式自動旋盤が稼働したことで前期比微減に留まった。
合 計	2,084,201	100.0%	102.2%	1,760,226	100.0%	84.5%	
売上原価	1,150,808	55.2%	99.8%	1,042,888	59.2%	90.6%	経常的なもので特殊要因はなかった。
売上総利益	933,392	44.8%	105.2%	717,338	40.8%	76.9%	
販売費及び一般管理費	296,586	14.2%	102.6%	265,915	15.2%	89.7%	経常的なもので特殊要因はなかった。
営業利益	636,806	30.6%	106.5%	451,422	25.6%	70.9%	減収に相応した減益になった。
経常利益	648,364	31.1%	105.4%	462,496	26.3%	71.3%	
当期純利益	447,563	21.5%	97.0%	319,497	18.2%	71.4%	

2020 年 6 月期 財務の状況

(単 位 : 千 円)

事業年度 資 産	2019 年6月期		2020 年6月期		増 減 要 因
	金 額	構成比	金 額	構成比	
現預金	6,758,282	75.1%	6,866,762	76.1%	
売上債権	449,266	5.0%	341,543	3.8%	売上減少に伴い減少。
棚卸資産	202,109	2.2%	237,932	2.7%	仕掛品が増加。
その他流動資産	△ 279	0.0	841	0.0%	
固定資産	1,596,671	17.7%	1,572,212	17.4%	
資 産 合 計	9,006,050	100.0%	9,019,292	100.0%	
負 債 ・ 資 本					
買入債務	17,074	0.2%	14,477	0.2%	
その他流動負債	285,962	3.1%	149,031	1.6%	未払金、未払法人税等が減少。
固定負債	475,417	5.3%	493,892	5.5%	
負 債 合 計	778,454	8.6%	657,400	7.3%	
純資産合計	8,227,595	91.4%	8,361,891	92.7%	
負債・純資産合計	9,006,050	100.0%	9,019,292	100.0%	

2020 年 6 月期 キャッシュ・フローの状況

(単 位 : 千 円)

	2019年6月期	2020年6月期	対前年比増減額	増 減 要 因
営業活動によるキャッシュ・フロー	643,246	443,302	▲ 199,943	主な増加要因：税引前当期純利益 462,499千円 主な減少要因：法人税等の支払額 220,745千円
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 478,444	▲ 167,932	301,512	主な減少要因：有形固定資産の取得による支出 166,286千円
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 168,052	▲ 167,439	612	配当金の支払額： 167,439千円
現金及び現金同等物の増減額	▲ 3,250	107,930	111,181	
現金及び現金同等物の期末残高	921,056	1,028,987	107,930	

今後の事業展開 ～ 自動旋盤用カム 部門

事業展開

- ◇カム式自動旋盤(すでに製造中止)は単品大量生産向きで少量ながらカムの需要は継続
- ◇将来的には減少傾向

競合状況

- ◇市場規模が小さく、既存の中小企業が継続しているが廃業により供給メーカー減少

当社の事業展開

- ◇既存の償却済設備と現状の人員で対応
- ◇低コスト製造を徹底

今後の事業展開 ～ コレットチャック 部門



小型CNC自動旋盤用コレットチャック

推定市場規模 25～30億円

メーカー 4社程度

その他 専用機コレットチャック

メーカー 3、4社程度

<今後の方向性>

- ◇小型精密部品の分野では今のところ代替する加工方法は少ない(コスト、時間などを考慮して)
- ◇世界的に小型精密部品に要求される精度、加工難易度は厳しくなる傾向

<国内の状況>

- ◇CNC自動旋盤 シチズンマシナリー、スター精密、ツガミ3社で世界の大半を占めている
- ◇国内で推定 12 ～ 13万台の機械が稼働している

<当社の対応>

- ◇加工部品に合わせた顧客ごとのオーダー品のコレットチャック対応
- ◇増大する高精度コレットチャック需要に対応した設備・人材の確保・拡充

今後の事業展開～切削工具部門

対象企業	主要加工内容	切削工具の状況		当社の受注	競合状況
大手メーカー 自動車・重電・航空機など 100社程度	量産部品加工 小ロット大物加工	切削工具内製、外部購入(工具商社経由) 社内再研磨、メーカー再研磨		△ △	内製、グループ会社 切削工具メーカー
準大手・中堅メーカー 従業者100名以上 13,000社程度	量産部品加工	市販切削工具 特注切削工具	再研磨外注 外部購入	○ ◎	再研磨会社 150社程 全国規模 4～5社 地域型、個人経営 工具商社系
中小加工企業 18万社程度	単品加工 設備・治具、金型	市販切削工具	再研磨外注	○	特注切削工具 大手中堅メーカー 10社程度 中小規模メーカー 数十社
	小中ロット加工	市販切削工具 特注切削工具	再研磨外注 外部購入	◎ ◎	

＜市販切削工具の例＞ 再研磨

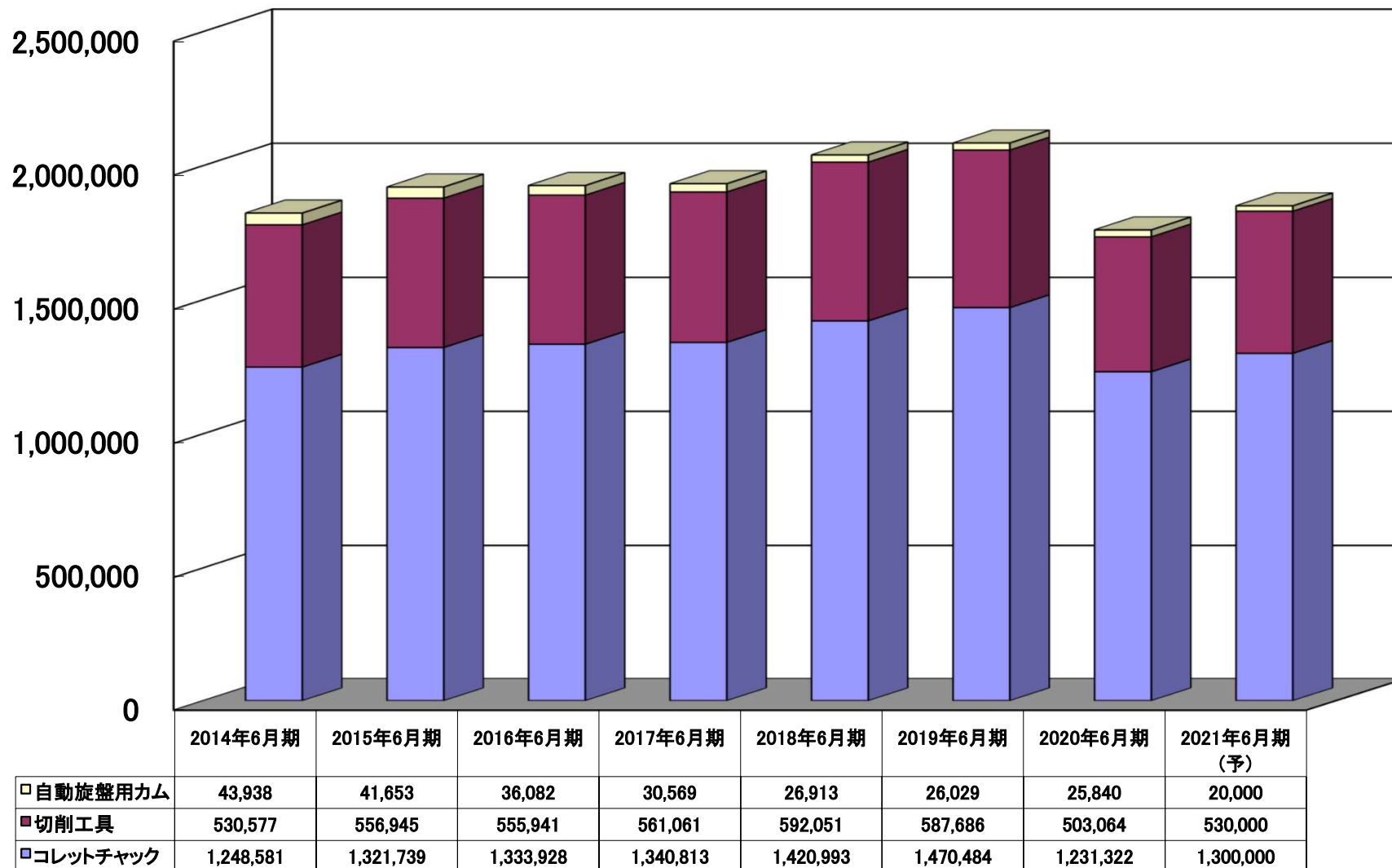


＜特注切削工具の例＞ 製作および再研磨



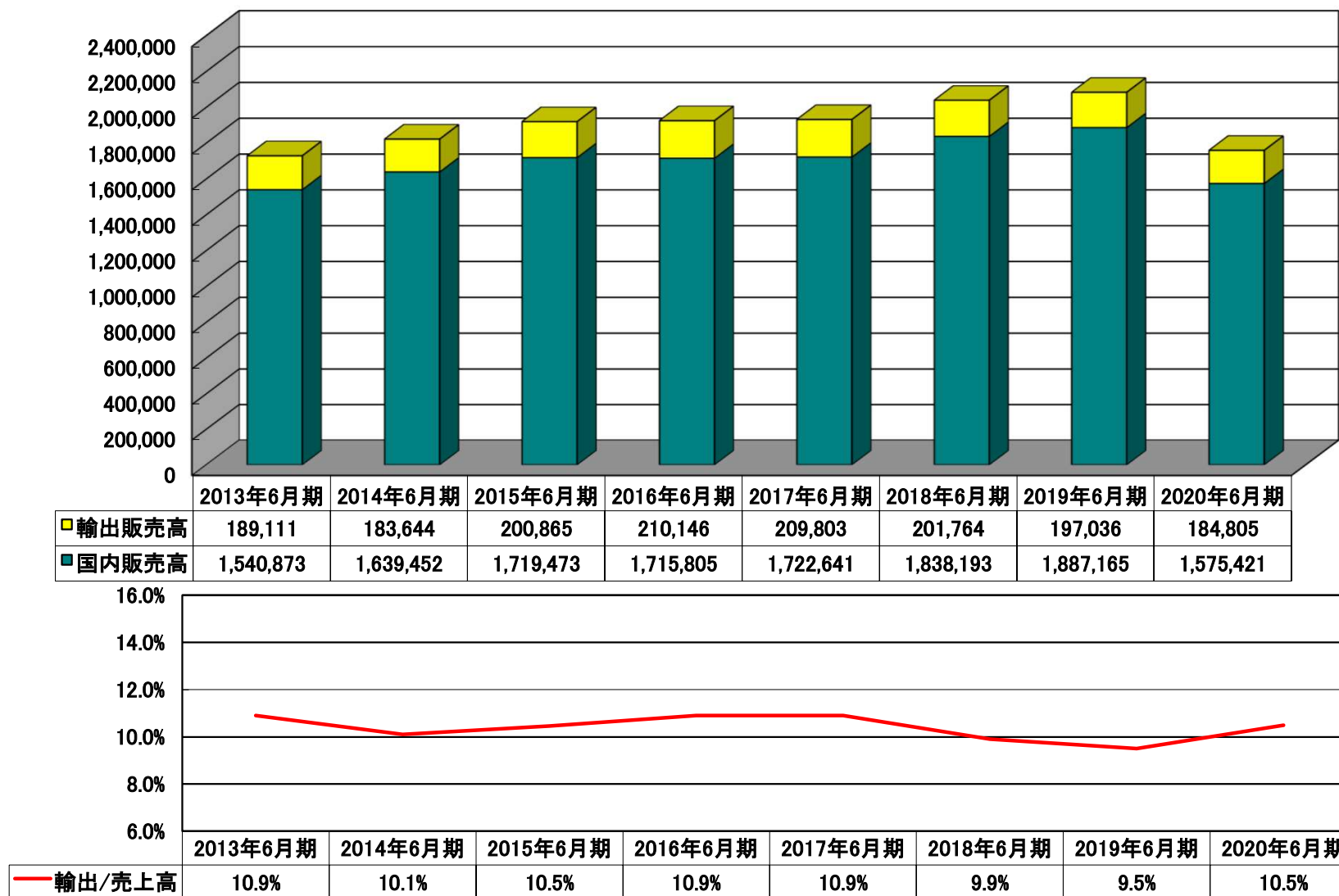
部門別売上状況

(単位：千円)

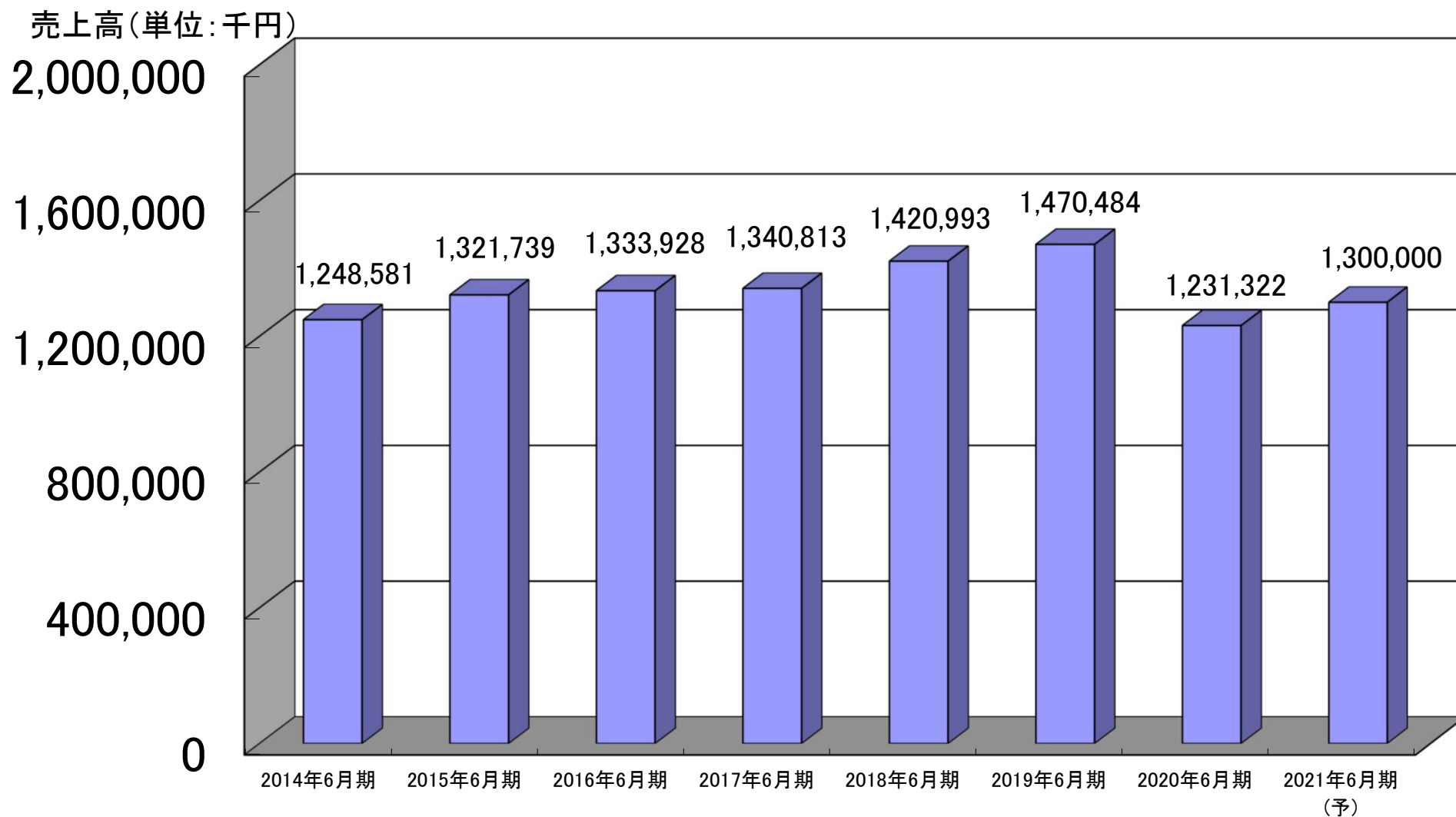


輸 出 売 上 状 況

(単位：千円)

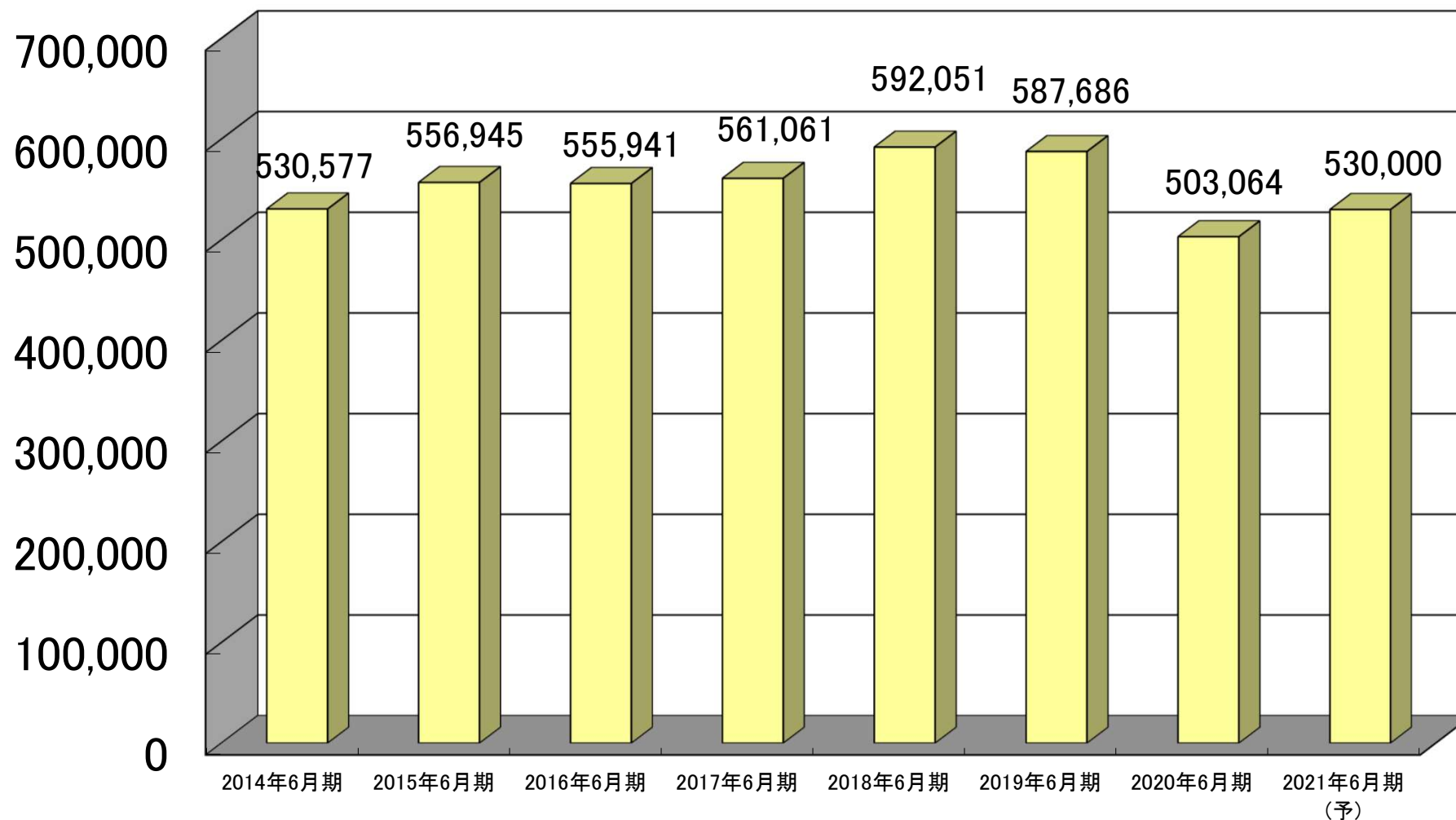


部門別状況 ～ コレットチャック部門



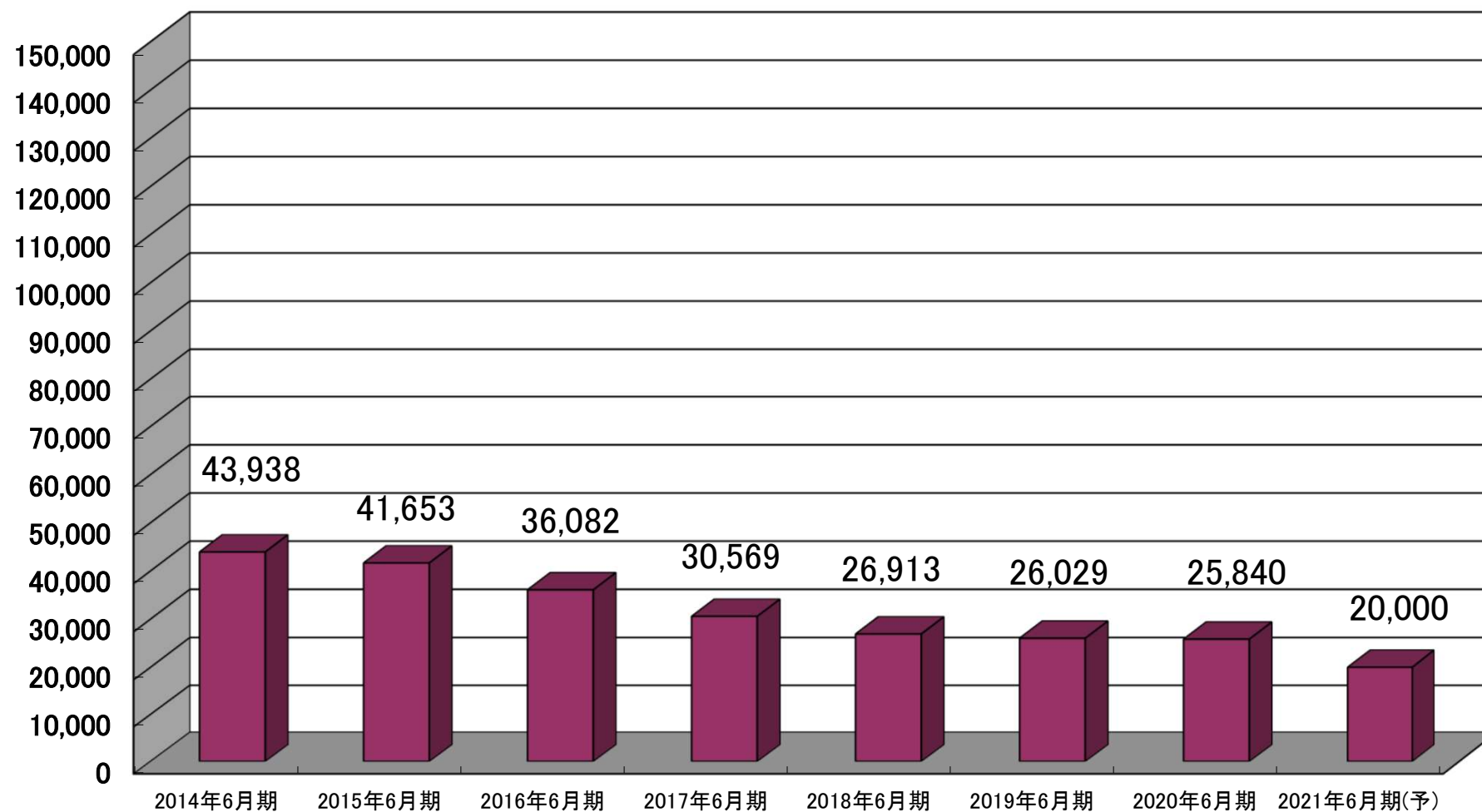
部門別状況 ～ 切削工具部門

売上高(単位:千円)



部門別状況 ～ 自動旋盤用カム部門

売上高(単位:千円)



設 備 投 資 と 減 価 償 却

	2016年6月期	2017年6月期	2018年6月期	2019年6月期	2020年6月期
設備投資額 (単位:千円)	98,321	222,346	197,196	78,360	167,456

	2016年6月期	2017年6月期	2018年6月期	2019年6月期	2020年6月期
減価償却費 (単位:千円)	195,071	181,786	175,564	175,961	177,766

切削工 具 部 門 の 戦 略 と 受 注 状 況

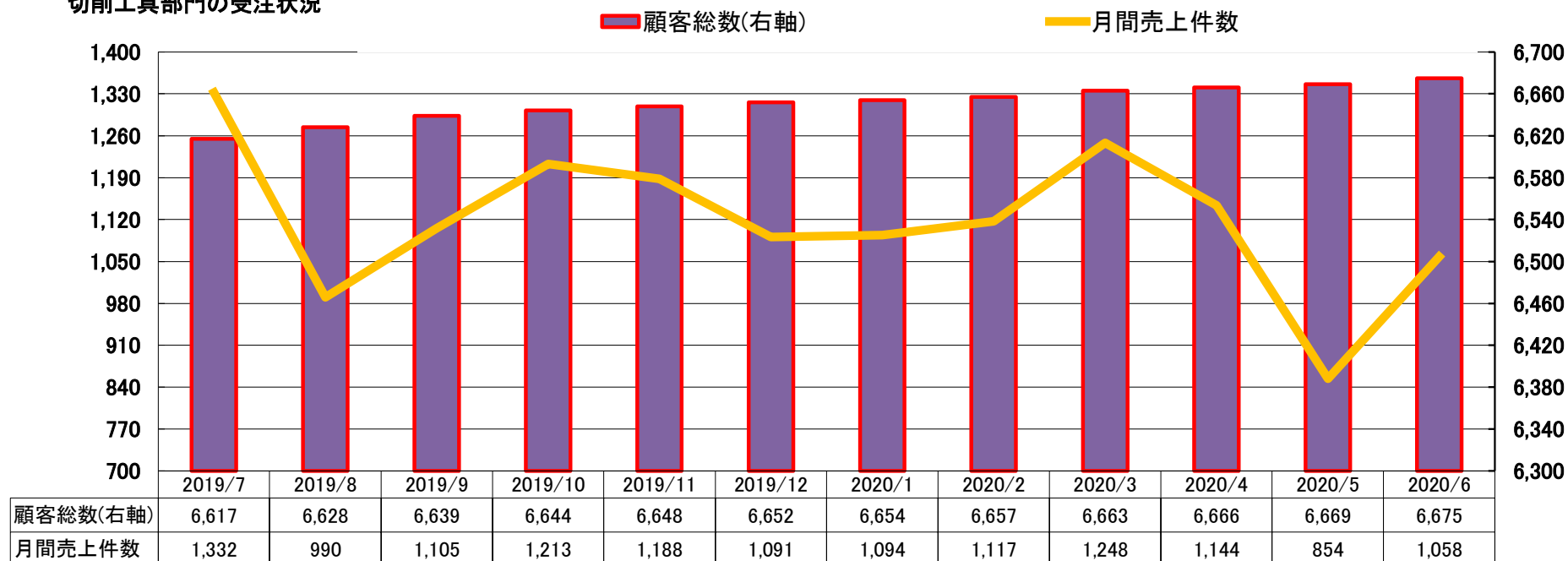
受注体制(人材、設備、社内オペレーション)を万全にする

新規設備導入により特殊ものへの対応を強化する

営業地域拡大し認知度向上と地域浸透度を高める

特殊切削工具の対象先を絞り、顧客層の拡充を図る

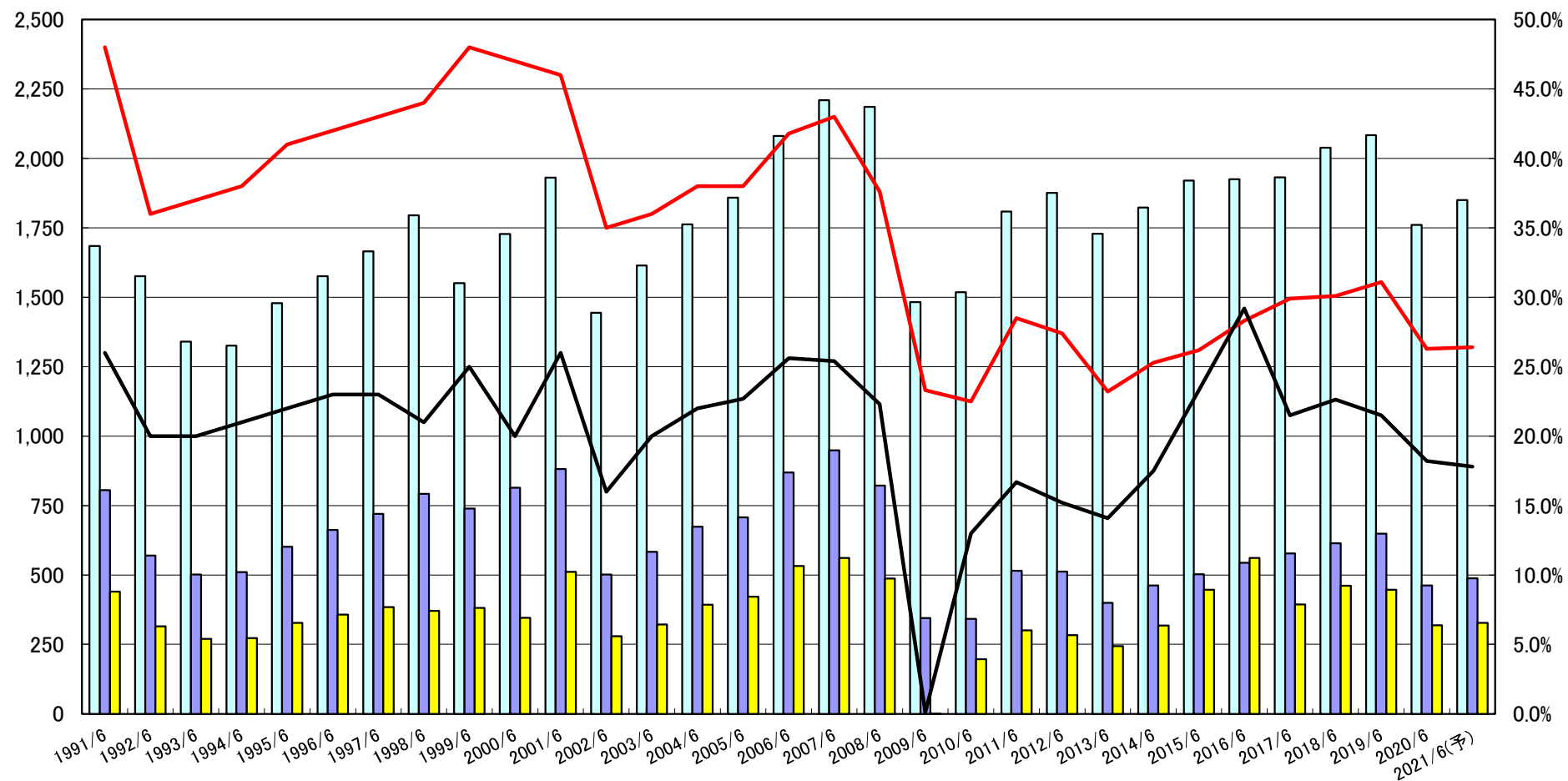
切削工具部門の受注状況



業 績 の 推 移

売上高 経常利益 当期純利益 売上高経常利益率 売上高当期純利益率

単位:百万円



実質機械受注と月次売上高

